

西兩國廣小路にかゝる三月上旬の真行仕ゆ

舶來大象之譜

虞舜の孝感天を動し、大象來て田を以て提婆の暴戾神を怒り、白象を以て憐れむ。夫象の灵有りや三獸
 の一と、象獅子虎の猛獸と比を爲し、非を西客心に望むれば、象を祈りて宿願を成し、印度の蒼生象を輕蔑
 をせざれば、其宗を受とのり。今般歐邏巴人天竺馬爾加國より一疋の大象を得、我神洲小渡來せり。生より
 僅小三歳、未骨肉充滿せられ、も圖計小遊ばせ、清食淨狀人林も及ば、夜の子を明て寅、起昏ハ三度居處を改
 む、火小の火を烈く、水逢てハ夏、禹も不如き、堯舜の聖代ハ麒麟原野小遊び、鳳凰梧桐小宿せり
 とうや、今四海の浪靜小治り、國風豊小あり、民和まき、戸々小千秋樂を唱へ、家々に萬歳樂をうたふ、是偏小
 天稟地封の德澤あり、將小灵獸乃祥瑞あるも、寛仁大度乃餘慶あるべし、中真蘭人寄陽小持渡り、小
 光陰の關門にへそられ、その象を畫圖小觀面、已さるひ多哉、泰平の時小生じ、我人小此聖獸を目前り、是
 ち少やをえたるも、十載不朽の面目あり、萬古未幾の奇事とつべし、わまは諸君子競て駕を曲り、來臨まればといふ

千時文久三癸亥季春上旬

柳史著作郎

假名恒曾文操觚



一畫齋
 芳豊
 筆



通海田

藤岡屋慶次郎版